

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI: Saitama Konchyū Danwakai

大野正男	: 埼玉県のトウキョウヒメハンミョウ	609
牧林功	: 三峰山半翅系昆虫類	610
小田博	: 『埼玉県動物誌』に追加する甲虫類(Ⅱ)	612
松井英子・築比地秀夫	: 三峰山でアサマキシタバを採集	615
南部敏明	: トカラ列島のハチ	616
神久保美津夫	: 三ヶ島のジャコウアゲハ	617
神久保美津夫	: 狹山湖畔でクロカタビロオサムシ	618
山崎正則	: 大宮市内でミドリヒヨウモンの幼虫を確認	619
野沢雅美	: 埼玉県産半翅類雑記(10)	620
野沢雅美	: 寄居町におけるモンキアゲハの記録	621
吉田文作	: モンキアゲハの採集・目撃記録	622
吉田文作	: オオウラギンヒヨウモンの記録	622
吉田文作	: パンジーでのメスグロヒヨウモンの飼育	623
市川和夫	: 5月下旬、月山々麓姥沢小屋付近の蛾	624
原聖樹	: ヒメアカタテハの越冬に関する資料	626
山崎正則	: 大宮市でマスダクロホシタマムシ	627
赤羽トモ子	: 小鹿野町における蝶の記録	627
	: 総会の報告	628
竹内崇夫	: “石戸宿の集い”	629
	: ☆埼玉昆虫談話会監修の図解ハンドブック刊行!	631
	: 出版物の紹介	631
	: 金曜セミナーの報告	632
	: 会報	634
	: 編集後記	636



埼玉県のトウキョウヒメハンミョウ

大野正男

トウキョウヒメハンミョウは、1933年、鹿野忠雄氏により、東京渋谷を模式産地として、独立種 *Cicindela yedoensis* n. sp. の名で記載されたハンミョウの1種である。しかし三輪勇四郎(1936)は、台湾産のタイワンヒメハンミョウ *C. kaleea* との関係を重視し、その亜種と見なし、*C. kaleea yedoensis* の学名を用いた。また中根猛彦(1953)は、本種は日本在来種でなく、台湾から移入された昆虫であろうとし、亜種として扱うことの価値について疑問を投げかけた。

学名についてはこうした問題点がなくはないが、日本産の *kaleea* は、やはり亜種として扱っておいた方が便利と考えられるので、ここでも三輪(1936)の見解を踏襲しておくことにする。

本種が外来種である可能性は極めて大きいが、その場合の渡来期は、おそらく明治初頭ということになろう。G. Lewis による、明治13~14年採集と考えられる横浜産の標本が存在するからである。

昭和8年、本種が記載され、トウキョウヒメハンミョウの名で呼ばれるようになってからは、同好者に注意されるようになり、各地から新産地が報告され始めた。特に戦後の記録はかなりの数にのぼり、その範囲は神奈川・東京・埼玉・千葉の1都3県に及ぶ。(北九州にも産地がある) おそらく、今後その分布域は、周辺に向かってさらに拡大し続けて行くことであろう。

埼玉県では、1978年、矢島嘉和氏により、朝霞市田島で発見されたのが最初であり、次いで筆者は、和光市新倉河岸を第2の産地として記録した(1980)。

東京の練馬区・北区辺りには、すでにかなり多く見られるようになっていたので、埼玉県下でも、武蔵野台地地区に侵入するのは時間の問題であった。朝霞市や和光市への侵入は当然予想されるところだったのである。

しかし、荒川をへだてた川口~浦和~大宮方面には本種の記録はなかった。荒川は、昆虫の種類如何では、分布拡散の障害となりうるので、トウキョウヒメハンミョウの場合、その存在がどのように影響を及ぼすのか、筆者は少なからず関心を寄せていた。

そのような折、1984年7月3日、たまたま訪れた戸田市道満で、筆者はこのトウキョウヒメハンミョウを発見・採集することができた(道満地区にはヒメハンミョウも多いが、生息地は重なっていないようである)。本種はすでに

荒川を越えていたのである。

本種の生息地は、あまり広い裸地でなく、樹林・草地などに隣接する小規模の裸地といった環境であることが多い。県南部に新たに侵入した本種が、今後その分布範囲をどのように拡大して行くか興味深い。県内の同好者とともに、成り行きを見守ってみたいと思う。新しいデータを得られた方、あるいはすでにおもちの方は、ぜひ本誌上に発表していただきたいものである。

矢島 嘉和 (1978) トウキョウヒメハンミョウの採集例・昆虫と自然, 13(13):30.

大野 正男 (1980) 新倉河岸の動物相. 「和光市新倉河岸地域総合調査報告書」
: 18 ~ 49 (和光市教育委員会).

(おおの まさお 〒350-02 埼玉県鶴ヶ島町脚折2丁目19-14)

~~~~~

### 三峰山半翅系昆虫類

牧林功

1983、1984年の三峰山合宿のおりに採集した半翅系昆虫類を列記しておく。同定はすべて林正美氏(埼玉大学)にお願いした。心よく労をとられた林氏に厚く感謝する。

#### 半翅類

1. トゲカメムシ *Carbula humerigera* UHLER  
/ ex. (幼生) 1-VII-1984  
4 exs. 27-VIII-1983
2. エゾアオカメムシ *Palomena angulosa* MOTSHULSKY  
/ ex. + / ex. (幼生) 27-VIII-1983
3. ツノアオカメムシ *Pentatoma japonica* DISTANT  
/ ex. 27-VIII-1983
4. ヘラクヌギカメムシ *Urostylis annulicornis* SCOTT  
/ ex. 1-VII-1984
5. ホソヘリカメムシ *Riptortus clavatus* THUNBERG  
/ ex. 27-VIII-1983
6. ハネナシサシガメ *Velinoides dilatatus* MATSUMURA  
/ ex. + / ex. (幼生) 27-VIII-1983
7. オオマダラメクラガメ *Phytocoris ohataensis* LINNAUORI  
3 ♀ 27-VIII-1983 (山地性の種)

8. オオマダラメクラガメの1種 *Phytocoris* sp.  
 4♂ / ♀. 27-VIII-1983

## 同 翅 目

9. ホシアワフキ *Atuphora stictica* MATSUMURA  
 / ex. 27-VIII-1983
10. モンキアワフキ *Yezophora flavomaculata* MATSUMURA  
 5exs. 27-VIII-1983
11. ヒメシロオビアワフキ *Trigophora obliqua* UHLER  
 / ex. 27-VIII-1983
12. シロオビアワフキ *Obiphora intermedia* UHLER  
 4exs. 27-VIII-1983
13. ミヤマアワフキ *Ainoptielus nigroscutellatus* MATSUMURA  
 5exs. 27-VIII-1983  
 野沢(1978)は甲武信岳、両神山より記録している。
14. コミヤマアワフキ *Peuceptyelus medius* MATSUMURA  
 野沢(1978)の記録にはない種。
15. セグロアオズキンヨコバイ *Batracomorphus dorsalis* (MATSUMURA)  
 / ex. 27-VIII-1983
16. ブチミヤクヨコバイ *Drabescus nigrofemoratus* MATSUMURA  
 / ex. 27-VIII-1983
17. マエジロヒロヨコバイ *Handianus limbifer*  
 / ♀ 27-VIII-1983
18. シラホシスカシヨコバイ *Scaphoideus festivus*  
 / ♀ 27-VIII-1983

## 参考文献

野沢 雅美(1978)埼玉の半翅類, 埼玉県動物誌 pp. 355~382.  
 (まきばやし いさお 〒330 大宮市天沼町2-864)

## 『埼玉県動物誌』に追加する甲虫類(II)

小田 博

昨年、本会会員で東京大学農学部附属秩父演習林に勤務する佐々木和男氏の採集保管する標本(ハムシ科・ゾウムシ科)を検する機会があったので、今回はこれを中心に報告したい。発表を快諾された佐々木和男氏に深謝申し上げます。

## 《ハムシ科 CHRYSOMELIDAE》

## I. クビボソハムシ亞科 Criocerinae

1. ルイスクビナガハムシ *Lilioceris lewisi* (JACOBY)  
秩父郡大滝村: 笠取山, 1ex., 28.VII.1979.; 矢竹沢, 1ex., 28.IV.1981.

## II. サルハムシ亞科 Eumolpinae

2. ムネアカサルハムシ *Basilepta ruficollis* (JACOBY)  
秩父郡大滝村曲沢, 1ex., 20.VI.1973.  
3. ブドウサルハムシ *Bromius obscurus* (LINNÉ)  
秩父郡大滝村雁坂峠, 1ex., 28.VII.1979.

## III. ハムシ亞科 Chrysomelinae

4. ハッカハムシ *Chrysolina exanthematica* (WIEDEMANN)  
飯能市大蔵山, 1ex., 15.IX.1970.  
5. ミヤマヒラタハムシ *Gastrolina peltoides* (GEBLER)  
秩父郡大滝村入川, 1ex., 13.VI.1973.  
6. ヒメトホシハムシ *Gonioctena takahashii* KIMOTO  
秩父郡大滝村滑沢, 2exs., 7.VI.1978.; 1ex., 7.VI.1981.

## IV. ヒゲナガハムシ亞科 Galerucinae

7. プチヒゲケブカハムシ *Pyrrhalta annulicornis* (BALY)  
秩父郡大滝村: 井戸沢, 2exs., 7.IX.1970.; 滑沢, 1ex., 18.IX.1970.;  
矢竹沢, 1ex., 6.IX.1977.; 十文字峠, 2exs., 10.VIII.1978.  
8. ウエツキブナハムシ *Chujoa uetsukii* (CHŪJŌ)  
秩父郡大滝村: 川又, 3exs., 8.IX.1970.; 矢竹沢, 1ex., 29.VIII.1978.  
9. クロバヒゲナガハムシ *Taumacera tibialis* (JACOBY)  
秩父郡大滝村: 矢竹沢, 1ex., 8.VIII.1978.  
10. ルリバネナガハムシ *Liroetis coeruleipennis* WEISE  
飯能市大蔵山, 1ex., 31.V.1970.; 秩父郡大滝村: 矢竹沢, 2exs., 4.VII.  
1977.  
11. キムネアオハムシ *Cneorane elegans* BALY  
秩父郡大滝村: 矢竹沢, 1ex., 18.VI.1971.  
12. キアシヒゲナガアオハムシ *Clerotilia flavomarginata* JACOBY  
秩父市黒石, 1ex., 18.VI.1980.  
13. ルリウスバハムシ *Stenoluperus cyaneus* (BALY)  
秩父市羊山, 1ex., 9.V.1971.; 秩父郡大滝村: 矢竹沢, 1ex., 4.VII.1978.;  
1ex., 22.VIII.1978.; 1ex., 29.VIII.1978.; 甲武信岳, 3exs., 28.VII.1979.  
14. ムナキホソヒゲナガハムシ *Leperus laricis* MOTSCHULSKY  
秩父郡大滝村甲武信岳, 1ex., 28.VII.1979.  
15. オオルリヒメハムシ *Calomicrus nobyi* CHŪJŌ  
秩父郡大滝村滑沢, 2exs., 7.VI.1978.  
16. ズグロアカハムシ *Gallerucida flavipennis* (SOLSKY)  
秩父市浦山, 1ex., 27.VI.1980.

## V. ノミハムシ亞科 Alticinae

17. クビボソトビハムシ *Pseudoliprus hirtus* (BALY)  
秩父郡大滝村, lex., 20.VI.1973.

## VI. トゲハムシ亞科 Hispinae

18. クロトゲハムシ *Hispellinus moerens* (BALY)  
秩父郡大滝村入山, lex., 3.VII.1979.

## VII. カメノコハムシ亞科 Cassidinae

19. ルイスジンガサハムシ *Thlaspidia lewisii* (BALY)  
秩父郡大滝村: 矢竹沢, lex., 18.VI.1971.; 赤沢, lex., 20.V.1974.

## 《ゾウムシ科 CURCULIONIDAE》

## I. クチブトゾウムシ亞科 Otiorrhynchinae

1. リンゴコフキゾウムシ *Phyllobius armatus* ROELOFS  
秩父郡大滝村: 甲武信岳, lex., 28.VII.1979.; 笠取山, 2exs., 29.VII.1979.  
2. コブヒゲボソゾウムシ *P. picipes* MOTSCHULSKY  
秩父郡大滝村: 矢竹沢, lex., 20.V.1971.; 入川, lex., 13.VI.1973.;  
笠取山, 2exs., 28.VII.1979.  
3. コヒゲボソゾウムシ *P. brevitarsis* KÔNO  
秩父郡大滝村: 矢竹沢, lex., 20.V.1971.; lex., 18.VI.1971.; 雲取山,  
lex., 29.VII.1979.  
4. ヒラズネヒゲボソゾウムシ *P. intrusus* KÔNO  
秩父郡大滝村滝川, lex., 25.IV.1979.  
5. ウスイロヒゲボソゾウムシ *P. mundus* (SHARP)  
秩父郡大滝村矢竹沢, lex., 28.V.1980.  
6. ツチイロヒゲボソゾウムシ *P. incomptus* SHARP  
秩父郡大滝村: 滑沢, 2exs., 18.VI.1970.; 雁坂峠, lex., 28.VII.1979.  
7. ケブカクチブトゾウムシ *Myllocerus fumosus* FAUST  
秩父郡大滝村矢竹沢, lex., 18.VII.1977.  
8. コカシワクチブトゾウムシ *Macrocorynus griseoides* (ZUMPT)  
秩父市羊山, lex., 9.V.1971.  
9. チビメナガゾウムシ *Calomycterus setarius* ROELOFS  
秩父郡大滝村十文字峠, lex., 14.VII.1978.  
10. シロコブゾウムシ *Episomus turritus* (GYLLENHAL)  
秩父市黒石, lex., 18.VI.1980.  
11. ハイイロヒョウタンゾウムシ *Catapionus obscurus* SHARP  
秩父郡大滝村矢竹沢, lex., 18.VII.1971.; 2exs., 16.VI.1978.  
12. フキヒョウタンゾウムシ *C. modestus* ROELOFS  
秩父郡大滝村矢竹沢, lex., 16.VI.1978.  
13. スグリゾウムシ *Pseudocneorhinus bifasciatus* ROELOFS  
秩父市下影森, lex., 1.VI.1983.

## II. タコゾウムシ亞科 Hyperinae

14. ハコベタコゾウムシ *Hypera basalis* (VOSS)  
秩父郡大滝村二瀬, lex., 17.V.1974.

## III. カツオゾウムシ亞科 Cleoninae

15. アイノカツオゾウムシ *Lixus maculatus* ROELOFS  
秩父郡大滝村: 二瀬, lex., 17.V.1974.; 矢竹沢, lex., 16.VI.1978.;  
入山, lex., 3.VII.1979.

## IV. コバンゾウムシ亞科 Gymnaetrinae

16. カミヤコバンゾウムシ *Miarus kamiyai* MORIMOTO  
秩父郡大滝村甲武信岳, lex., 28.VII.1979.; 秩父市浦山, 4exs., 27.VI.1980.

V. タマゾウムシ亞科 *Cioninae*

17. アカタマゾウムシ *Stereonychus japonicus* HUSTACHE  
秩父郡大滝村大血川, 1ex., 29.V.1979.

VI. ノミゾウムシ亞科 *Rhynchaeninae*

18. アカアシノミゾウムシ *Rhynchaenus sanguinipes* (ROELOFS)  
秩父郡横瀬村川西, 5exs., 15.VI.1982.

VII. コガタゾウムシ亞科 *Tychiinae*

19. クロツブゾウムシ *Sphinxus koikei* (VOSS et CHUJÔ)  
秩父郡大滝村大血川, 1ex., 29.V.1979.

20. タバゲササラゾウムシ *Demimaea fascicularis* (REOLOFS)  
秩父郡大滝村矢竹沢, 4exs., 14.VII.1980.

VIII. シギゾウムシ亞科 *Curculioninae*

21. セダカシギゾウムシ *Curculio convexus* (ROELOFS)  
秩父郡大滝村: 大血川, 1ex., 29.V.1979.; 清沢, 1ex., 30.V.1984.

IX. サルゾウムシ亞科 *Ceutorhynchinae*

22. トゲカタビロサルゾウムシ *Cyphosenus bouvieri* HUSTACHE  
秩父郡大滝村入山, 1ex., 13.VI.1973.

23. キイチゴトゲサルゾウムシ *Scleropterooides hypocritus* (HUSTACHE)  
秩父郡大滝村: 中津川, 1ex., 19.VI.1974.; 矢竹沢, 5exs., 21.V.1979.

X. クモゾウムシ亞科 *Zygopinae*

24. ミヤマヒシガタクモゾウムシ *Lobotrachelus minor* (HUSTACHE)  
秩父郡大滝村: 矢竹沢, 1ex., 21.V.1979.; 大血川, 1ex., 29.V.1979.;  
滝川, 1ex., 28.V.1981.

25. ノコギリクモゾウムシ *Mecopomorphus griseus* HUSTACHE  
秩父郡大滝村川又, 1ex., 27.VIII.1970.

XI. ツツゾウムシ亞科 *Carciliinae*

26. ツツゾウムシ *Carcilia strigicollis* ROELOFS  
秩父市羊山, 1ex., 18.VII.1971.; 秩父郡大滝村: 曲沢, 1ex., 30.V.  
1973; 川又, 1ex., 8.VII.1974.; 矢竹沢, 1ex., 13.IX.1977.

XII. キボシゾウムシ亞科 *Pissodinae*

27. マツキボシゾウムシ *Pissodes nitidus* ROELOFS  
秩父郡大滝村矢竹沢, 1ex., 13.VI.1977.; 1ex., 4.VII.1977.

XIII. カレキゾウムシ亞科 *Acicnemidinae*

28. クロカレキゾウムシ *Acicnemis kiotoensis* NAKANE  
秩父郡大滝村曲沢, 1ex., 30.V.1973.

XIV. アナアキゾウムシ亞科 *Hylobiinae*

29. アカコブゾウムシ *Kobuzo rectirostris* (ROELOFS)  
秩父郡大滝村矢竹沢, 1ex., 20.VI.1978.; 1ex., 21.V.1979.

30. ナガアナアキゾウムシ *Dyscerus laeviventris* (HUSTACHE)  
秩父郡大滝村十文字峠, 1ex., 13.VII.1978.

31. コクロアナアキゾウムシ *D. cibratus* (ROELOFS)  
秩父郡大滝村矢竹沢, 1ex., 4.VII.1977.

XV. クチカクシゾウムシ亞科 *Cryptorhynchinae*

32. ウンモンナガクチカクシゾウムシ *Rhadionomerus unmon* NAKANE  
秩父郡大滝村矢竹沢, 3exs., 4.VII.1977.

33. マエバラナガクチカクシゾウムシ *R. maebarai* CHÔJÔ et VOSS  
 秩父郡大滝村: 矢竹沢, 3exs., 13.IX.1977.; 1ex., 20.VI.1978.; 2exs.,  
 25.VII.1978.; 1ex., 8.VIII.1978.; 1ex., 14.V.1980.; 川又, 1ex., 6.VI.  
 1978.; 秩父市浦山, 4exs., 27. VI.1980.
34. オオクチカクシゾウムシ *Syrotelus septentrionalis* (ROELOFS)  
 秩父郡大滝村久度の沢, 4exs., 14.VI.1983.
35. モンクチカクシゾウムシ *Sclerolips maculicollis* MORIMOTO  
 秩父郡大滝村曲沢, 1ex., 30.V.1973.
36. アシナガオニゾウムシ *Gaerocercus longipes* KÔNO  
 秩父郡大滝村矢竹沢, 1ex., 29.VIII.1977.

【訂正と追加】 前回のリスト中 [本誌(42):543] №30ベニモンチビオオキノコムシ *Tritoma sobrina* LEWIS をベニモンキノコゴミムシダマシ *Platydema subfascia* WALKER と訂正する。したがって、後者を未記録種として追加し、前者は本県からはさしあたり未発見の種ということになり、リストより抹消しておく。

(おだ ひろし 〒354 富士見市上沢3-6-15)

~~~~~

三峰山でアサマキシタバを採集

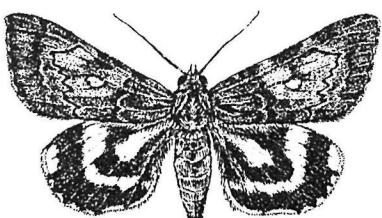
松井 英子・築比地 秀夫

1984年6月30日、三峰山で行われた本会の宿泊談話会において、筆者らはアサマキシタバ *Catocala streckeri* Staudinger を下記のように採集したので報告する。

2 ♂♂、2 ♀♀	松井 英子 採集
/ ♂	築比地 秀夫 採集

市川ら(1978)「埼玉の蛾類: 埼玉県動物誌」および並木(1983)「埼玉県のヤガ科(VII): 寄せ蛾記№39」には本種の記載がなく、本記録が埼玉県初記録と思われる。

なお、当日参加された杉繁郎氏は「三峰山で採集されて当然」と言っておられた由、他の *Catocala* よりも出現期が早い種なので、採集される機会がなかったのであろう。



標本は各採集者が保管しているが、松井採集のもののうち1♂/♀は市川和夫氏が保管されている。

未筆ながら、ご教示いただいた杉繁郎氏、市川和夫氏に感謝申し上げる。

アサマキシタバ 松井英子 画 (まつい ひでこ 〒277 柏市根戸427-5
 北柏第2住宅3-102)

(ついひじ ひでお 〒333 川口市前川 4-13-2)

トカラ列島のハチ

南部敏明

大宮市立泰平中学校教諭川名美佐男氏は、今夏トカラ列島へ陸貝の採集に家族で出掛けられた。その際友人達のために、専門外のハチ、ハエ、カメムシ、ガなどを採集して来てくれた。この好意に深く感謝するとともに、無駄にしないためにここにそのハチの目録を残しておくことにする。採集地、採集月日は次の通りである。

トカラ列島宝島、2~11-VIII-1985 (以下のリストでは T とする)。

同 悪石島、12~19-VIII-1985 (A とする)。

ヒメバチ科 Ichneumonidae

1. アメバチの1種 A: 1♀

アシブトコバチ科 Chalcididae

2. キアシブトコバチ *Brachymeria obscurata* (WALKER) A: 1♀

ベッコウバチ科 Pompilidae

3. ヒメベッコウの1種 A: 1♀

スズメバチ科 Vespidae

4. キアシナガバチ *Polistes rothneyi* CAMERON A: 1♀

本種は3亜種に分けられ、本州より九州までのものは iwatai、沖縄本島産は ingrami、西表島産は yayeyamae と亜種名がつけられている。この標本がどちらに属するか興味があるが、専門家の同定が必要である。

5. セグロアシナガバチ *Polistes jadwing* DALLA TORRE T: 12♀

本州産のものは前伸腹節は無紋であるが、この標本では無紋のもの2頭、痕跡的な2紋のあるもの3頭、他の7頭は立派なたて長の横紋がある。又中胸背、腹部の黄褐色部も広い。

ドロバチ科 Eumenidae

6. ジュウジドロバチ *Euodynerus trilobus* FABRICIUS T: 1♀

7. オキナワドロバチ属の1種 T: 1♀

奄美大島、沖縄本島より採集されているが、まだ記載されていない。

アナバチ科 Sphecidae

8. コオロギバチ *Liris docilis* (SMITH) A: 2♂

9. ヒメコオロギバチ *Liris festinans* (SMITH) A: 1♀

原種と日本亜種(記録は屋久島以北)に分けられているが、どちらに属するかはつきりしなかった。

10. コクロアナバチ *Isodontia nigella*(SMITH) T: 1♀ 1♂

11. クロアナバチ *Sphex argentatus fumosus* KOHL (日本亜種) A: 1♂

奄美大島以南に産するものは原種とされ、日本亜種は屋久島までのようであるが、この標本は翅が強くもっており、日本亜種に入ると思われる。ただし体は大きい。

12. ルリジガバチ *Chalybion japonicum*(GRIBODO) T: 3♀ 5♂, A: 1♀

13. キゴシジガバチ *Sceliphron madraspatanum kohli* SICKMANN
T: 11♀ 16♂, A: 3♀

楯板の黄斑の有無により上記日本亜種とタイワン亜種に分けられている。調べてみると以下のようであった。

楯板の黄斑	T		A
	♀	♂	♀
なし	6	7	2
痕跡的2紋	2	3	1
小形の2紋	1	5	0
2紋が合着	2	1	0

これより見ると日本亜種に入れるべきであると思われる。

ハキリバチ科 Megachilidae

14. オキナワキバラハキリバチ *Megachile okinawana* YASUMATSU
et HIRASHIMA T: 1♀

ケブカハナバチ科 Anthophoridae

15. アシグロセジロクマバチ *Xylocopa amamensis* SONAN T: 3♀, A: 1♀

本種はトカラ列島より徳之島までの間のみに分布している。

(なんぶ としあき 玄369-12 大里郡寄居町桜沢2397-2)

三ヶ島のジャコウアゲハ

神 久 保 美 津 夫

1985年9月15日、所沢市三ヶ島の早大キャンパス予定地を訪れてみた。これは以前(1983年)埼玉昆虫談話会で三ヶ島の昆虫調査を行ったベースキャンプの思い出の場所でもある。虫達の夜の饗宴の舞台となった栗林は切られ、今はすでになく、付近の荒地には雑草が腰の高さほどに生い茂っている。

その中に混って、おびただしいほどのウマノスズクサが生育している。以前の調査では、ジャコウアゲハは記録できなかつたが（目撃者はいたようだ）、昨年あたりから個体数がかなり増えていて（大島良美氏が蛹を多数確認している）、今年も確実に発生をくりかえしている。夏には成虫の産卵も見られ、ウマノスズクサが勢力を増すのに比例して個体数も増えているようだ。荒地の一部にヒノキ等の樹木が植えられ、その樹に棒などが足場のように組んである。この樹木や棒がジャコウアゲハの絶好の蛹化場所になっていて、低いところは地上30cmぐらいから、高いところは3~4mの樹木の枝に、蛹化したばかりの明るい茶色の蛹がよく目立つ。この日、おおまかに確認しただけで40蛹あまり、前蛹も数頭見られた。念のために食草のウマノスズクサもさがしてみたが、幼虫や蛹は発見できなかつた。ホソオチョウが放されたとのうわさを耳にしたが、今年この地を3度訪れた限りでは、幼虫も成虫も発見していない。

(じんくぼ みつお 〒358 入間市下藤沢158)

~~~~~  
狭山湖畔でクロカタビロオサムシ

神久保美津夫

狭山丘陵には多くの林道があり、林道脇には小さな崖も多い。その崖（高さ1m位）でアオオサをさがしていたところ、崖の中段を少しくずしたところで見かけないオサが出てきた。帰ってから図鑑で調べたところ、クロカタビロオサであった。埼玉県での記録はあまり多くないとのことなので報告しておく。

クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowiczi* 1♀

採集地：狭山湖畔林道脇（埼玉県入間市）

採集日：1985年2月17日

なお、この日は本種以外にもアオオサムシ7exs. クロナガオサムシ1ex. を採集した。今年の冬はなぜか、蝶屋であるはずの私が、オサ掘りを数回（埼玉県 多峰主山・日和田山、千葉県富山、栃木県野木町）もも行ってしまった。

(じんくぼ みつお 〒358 入間市下藤沢158 )

## 大宮市内でミドリヒョウモンの幼虫を確認

山崎正則

近年、平地においてミドリヒョウモンが見られる様になつたものの、成虫採集の報告が多い割には幼虫確認の報告がないようである。筆者は、友人より大宮産のミドリヒョウモンの幼虫を譲り受けたので、その幼虫発見の状況を混じえて報告する。

幼虫の発見者は筆者の高校生時代、同じ生物部の仲間であった小沢進氏で、小沢氏は現在、日本スミレ研究会の会員であり、自宅の庭には各種スミレが数百株自然繁殖し、氏自身もスミレの栽培をおこなっている。ミドリヒョウモンの幼虫は、この庭で繁殖したスミレ群中より発見され、氏の話によると、昨年までは発見しておらず（発生していても気づかなかつた可能性もある）、今年4月にスミレの葉を食べている害虫と思い、本種の幼虫と知らずに同じような毛虫を5頭捕殺していたとのこと。その後、碓井氏より依頼されていた外国産のスミレ *V. papilionacea* を小沢氏より譲り受ける際に、ヒョウモン類の食草はスミレ類である旨を話しておいたところ、数日後、「以前に捕殺した物と同じような毛虫がスミレを食べているが、ヒョウモンの幼虫ではないか?」と言う連絡が筆者にはいり、5月19日に調査に出向いたところ、3頭の終令幼虫を確認した。その後、1頭は筆者の不注意で逃走されてしまったが、残り2頭の終令幼虫は筆者がより自然に近い状態、という事で野外にて袋かけ法により飼育し、5月22日（食草を植えておいた鉢のへり）と5月25日（葉裏）に蛹化、6月9日に1♂、6月11日にも1♂が羽化した。

小沢氏宅の庭で食草となっていたのは、株数の多さと食痕から、タチツボスミレ・マルバスミレ・*V. papilionacea*（外国産）の3種を主食草としていた様で、5月19日以降の飼育は *V. papilionacea* でおこなつた。

幼虫の発見地である小沢氏の自宅は、大宮市大成町で近くを国道17号線が通つており、環境的に必ずしも良い状態とは言えないものの、今回の幼虫発見で人為的にしろ食草さえ充分に確保されれば偶然ながらも自然発生は市街地でも可能なものと思われる。当地における今後の自然発生は今の所全く不明であるが、小沢氏によれば、今後もスミレ類は絶やす事なく繁殖するが、ままにまかせて自然状態にしておくとの事である。昨年ぐらいの成虫飛来があれば、多少なりとも今後の自然発生は可能なものと思われる。

(やまさき まさのり 〒330 大宮市島町824-3)

埼玉県産半翅類雑記 ( 10 )

～神川村における半翅類4題～

野沢 雅美

昨年の夏より、児玉郡神川村の動物、主として昆虫類を中心に調査を進めているが、このうち半翅類4種をとりあげてみたい。神川村は、埼玉県の北西部に位置し、神流川(かんながわ)を隔てた対岸は群馬県の藤岡市である。この地域の動・植物調査は本県でも遅れているのが現状であろう。地形的には渡瀬東部の山地帯(374m)から金讃神社のある御岳山(343.4m)へと続くが、大部分が農耕地(桑・水田など)である。

(1) アカハネナガウンカ (ハネナガウンカ科) *Diostrombus politus* Uhler

神川村渡瀬 1984-VIII-4 / ex.

神川村肥土 1984-VIII-23 2exs.

神川村青年の家 1984-VIII-21 26exs.

ふだんはめったに会うことがないが、時に群棲すると言われている。体は丸く、朱色の美しい種でイネ科に寄生。埼玉県神川青年の家玄関前の松林下草のススキに大発生しており、採集個体の他、多数が葉に寄生していた。

(2) シリアカハネナガウンカ (ハネナガウンカ科)

*Zoraida horishana* Matsumura

神川村渡瀬サネ薬師林道 1984-VIII-10 / ex.

前種同様で前翅は非常に長い。林道の草をスイーピングして得たもの。寄生植物は不明。

(3) クロバネテラウチウンカ (ウンカ科) *Terauchiana nigripennis* Kato

神川村渡瀬神流川川原 1984-VIII-4 3exs.

これまで埼玉県内では記録を見なかったが、川原でのスイーピングで得た。体長約7mm。

(4) チャイロカメムシ (カメムシ科) *Eurygaster testudinaria* koreana Wagner

神川村肥土神流川川原 1985-VI-22 3exs.

カメムシ科のチャイロカメムシ亜科を構成する唯一の種で、形態的に特異な種である。埼玉県におけるこれまでの既産地は、長瀬町杉郷唐沢（野沢・1974-VI-29 / ex.）、寄居町三ヶ山（野沢・1983-V-15 / ex.）および熊谷市（寺山・1979-V-27 / ex.）があるにすぎない。今回、同村の肥土の川原で成虫および幼虫（飼育下で羽化）を計3個体得たので新産地としてとりあげておく。調査次第では、付近にそれほど少なくないと思われる。寄主植物は調査中である。

現在、神川村教育委員会では、村史編さん事業が進められており、筆者も動物調査に参画している1人である。

会員諸氏で、当地の調査リストをわずかでもお持ちでしたら、ぜひご提供下されば幸いです。

(のざわ まさみ 〒369-12 寄居町桜沢2506-4)

~~~~~

寄居町におけるモンキアゲハの記録

野沢 雅美

分布を北に広げているアゲハチョウ科のモンキアゲハは、近年、寄居町においてもよく見かけるようになった。これまでの記録を整理しておく。

- (1) 寄居町風布 1980-VII-28 (/ 頭目撃)
- (2) 寄居町桜沢教職員住宅 1980-VIII-31 (/ 頭目撃)
- (3) 寄居町桜沢行人塚（自宅近く） 1983-V-15 (/ 頭目撃)

羽化後まもないと思われる新鮮個体。地上50cm程のところをゆるやかに飛んでいた。

- (4) 東秩父村二本木峠 1984-VII-8 (/ ♂採集)

藤田光男氏（県立寄居養護学校教諭）と一緒に採集に出かけ、藤田氏が得たもので、他にも2~3頭が飛んでいた。寄居町に隣接した地域での記録として挙げておく。

- (5) 寄居町鐘撞堂山々頂

1985-V-26 (/ 頭目撃) 埼玉県動物研究会現地研修会の際、山頂に飛來したものを観察。

1985-VI-4 (/ ♂採集) 寄居養護学校生徒が採集。

- (6) 寄居町末野御獄山 1985-V-29 (/ ♂ / ♀採集)

(7) 寄居町末野県立寄居養護学校内 1985-VI-4 (/ ♂ / ♀ 採集)

上記2例は、いずれも養護学校生徒が採集したもの。

藤田光男氏によれば、県立寄居養護学校内では、今春、かなりの個体数を観察しており、現在は採集しないで保護する指導をしているという。しかし、7月10日に実施された、松林のマツクイムシに対する空中薬剤散布後、本種は姿を消しているとのこと。考えさせられる問題である。

最後に、採集標本を見せていただき、また快く資料提供をして下さった同校教諭藤田光男氏に心より感謝する次第である。

(のざわ まさみ 〒369-12 寄居町桜沢2506-4)

モンキアゲハの採集・目撃記録

吉田文作

埼玉県内でも、時々モンキアゲハ *Papilio helenus LINNAEUS* の採集・目撃記録が報告されており、最近は増加の傾向にあるようである。筆者も、以前に何度か採集・目撃をしているので報告しておく。

- ・秩父郡浦山口（浦山ダム）17-VI-1968 目撃
- ・秩父郡皆野町（美の山山頂）15-VI-1969 目撃
- ・秩父郡皆野町（美の山山頂）23-VI-1970 / ♂ 採集
- ・熊谷市三ヶ尻（筆者自宅付近）21-IX-1981 目撃
- ・秩父郡皆野町（美の山山頂）19-VI-1983 目撃

(よしだ ぶんさく 〒360 熊谷市三ヶ尻2849-1)

オオウラギンヒヨウモンの記録

吉田文作

オオウラギンヒヨウモン *Fabriciana nerippe C. & R. FELDER* は、以前には四国・九州で普通に産したようであるが、現在では全国的に個体数が減少している蝶のようである。少し古い記録であるが、筆者は信濃追分にて記録しているので、ここに報告しておく。

採集場所 長野県北佐久郡 追分ヶ原

12-VIII-1978 / ♀, 12-VIII-1978 2♀ (標本は筆者が保存)

なお、同地にて同行の栗原時男氏も、 / ♂ 2 ♀ 12-Ⅷ-1978 を記録している。

(よしだ ぶんさく 〒360 熊谷市三ヶ尻 2849-1)

~~~~~

## パンジーでのメスグロヒョウモンの飼育

吉田文作

1984年は暑さのためか、ヒョウモン類が多数平地に降りてきたようで、各地で採集・目撃された。筆者は、比企郡小川町腰越で約30頭程のメスグロヒョウモンの♀を目撃し、そのうちの2♀を採集した。そして、この母蝶より約100卵ほど採卵し、パンジーでの飼育を試みたので結果を報告する。なお、自然状態では、タチツボスミレ・ツボスミレ・エンザイスミレ等のスミレ類を食草としているようである。

1984年10月13日 比企郡小川町腰越で2♀を採集

10月14～20日 約100卵ほど産卵。

10月下旬頃 までに82卵 孵化する。

素焼の鉢の縁や枯枝につかまり越冬する。

1985年3月15日 パンジーを植え込んだ鉢に移す。

3月下旬よりパンジーを食べ、順調に育つ。

5月17日～6月4日にかけて65頭蛹化。

6月3日～6月21日にかけて53頭羽化。

しかし、羽化した53頭(♂27 ♀26)のうち、7頭(♂2 ♀5)は翅がない。その他、全く羽化しないものが12蛹もいた。したがって、65蛹化したものの中、羽化し正常に翅がのびたものは、45頭(♂25 ♀21)で69%であった。

なお、飼育場所は、自宅の北側の軒下で、鉢植えのパンジーに袋かけしたものである。以上のように羽化率が悪かったのは、食草パンジーのためなのか、あるいは他に原因があるのか、また他の食草でも同様なのか筆者には判断できかねる。この飼育結果が何かの参考になれば幸いである。

(よしだ ぶんさく 〒360 熊谷市三ヶ尻 2849-1)

5月下旬, 月山々麓 姥沢小屋附近の蛾  
市川和夫

春スキーで名高い山形県の月山を訪れ、夜間は姥沢小屋およびバス停附近の民宿の灯火に飛来した蛾を採集した。5月末でも小屋の下方まで1メートル以上の積雪があり、多勢のスキーヤーでにぎわっていた。あたり一面の銀世界で、夜間相当冷えこむのに、そびえ立つブナの枝先は芽出しが始まり、若葉の緑が美しい。もちろん麓の志津は春だけなわというところである。

真冬と春とが同居するこの時期に、どのような蛾が活動するのかを知りたくて、浦和高校の井口巖氏の協力を得て合計105個体を採集、展翅して調べた結果次の5科38種を確認できた。その中に、本州初記録、日本最北の記録と思われるもの各1が含まれ、また、春の蛾に混じって冬の蛾もいること、夏季とくらべ♀個体が割合いで多いことが特筆される。

採集地：山形県西村山郡西川町姥沢小屋（標高1,250m）

採集日：1983年5月28日、29日（両日とも夜7時～9時）

OECOPHORIDAE マルハキバガ科

1. *Agonopterix sapporensis*(MATSUMURA) ハナウドヒラタマルハキバガ 1♀  
森内茂(1982)によると、本種の既知産地は北海道で、成虫は7月下旬に羽化するという。したがって、この 29-V-1983 における採集例は本州初記録となると思われる。

PYRALIDAE メイガ科

1. *Palpita nigropunctalis*(BREMER) マエアカスカシノメイガ 1♀
2. *Udea montensis* MUTUURA コマルモンノメイガ 1♀

GEOMETRIDAE シャクガ科

1. *Inurois fletcheri* INOUE ウスバフユシャク 1♀  
フユシャク類では比較的早く出現するが、積雪地帯では5月下旬に活動していることを知る。
2. *Trichopteryx fastuosa* INOUE シロシタコバネナミシャク 3♀ 6♂
3. *T. ignorata* INOUE ハイイロコバネナミシャク 1♀ 1♂
4. *T. ussurica* (WEHRLI) マダラコバネナミシャク 7♀
5. *Brabira artemidera* (OBERTHÜR) キリバネホソナミシャク 2♀
6. *Photoscotosia atrostrigata* (BREMER) ネグロウスベニナミシャク 1♀

7. *Dysstroma infuscata* (TENGSTRÖN) ウスキナカジロナミシャク 1♂
8. *Perizoma fulvida* (BUTLER) コカバスジナミシャク 3♀
9. *Eupithecia tricornuta* INOUE セアカカバナミシャク 1♂
10. *Myrteta sericea* (BUTLER) キスジシロエダシャク 2♂

井上寛(1982)によると、原名亜種は宮城県以南の本州、四国、九州等に分布するという。この記録(29-V-1983)はおそらく最北のもので、採集個体は夏生のものに似て、横線が淡い。

11. *Crypsicometa incertaria* (LEECH) ツマキエダシャク 1♂
12. *Arichanna tetrica* (BUTLER) キジマエダシャク 4♂
13. *A. albomacularia* LEECH シロホシエダシャク 1♂
14. *Cleora leucophaea* (BUTLER) シロテンエダシャク 1♀ 2♂
15. *Pseuderannis lomozemias* (PROUT) ウスバキエダシャク 1♀ 6♂
16. *P. amplipennis* (INOUE) ウスバシロエダシャク 6♂
17. *Paradarisa consonaria* (HÜBNER) シナトビスジエダシャク 2♀ 1♂
18. *Medasina nikkonis* (BUTLER) ニッコウエダシャク 5♂
19. *Cryptochorina amphidasysaria* (OBERTHÜR) ヒゲマダラエダシャク 1♂
20. *Zethenia albonotaria* (BREMER) モンシロツマキリエダシャク 1♂
21. *Endropiodes abjectus* (BUTLER) ツマキリエダシャク 1♂
22. *Plagodis dolabraria* (LINNAEUS) ナカキエダシャク 1♀
23. *Petrophora chlorosata* (SCOPOLI) シダエダシャク 3♀ 1♂

#### NOTODONTIDAE シャチホコガ科

1. *Quadricalcarifera punctatella* (MOTSCHULSKY) ブナアオシャチホコ 6♂  
本種は1982年の夏、秋田県を中心に東北地方各地で大発生し、夏のブナ林を裸にしてしまった。ブナ帯では毎年発生を見る。

2. *Odontosia sieversii* (MENETRIES) シーベルスシャチホコ 1♂  
NOCTUIDAE ヤガ科

1. *Colocasia jezoensis* (MATSUMURA) ネグロケンモン 2♂
2. *Diarsia deparca* (BUTLER) コウスチャヤガ 1♂
3. *D. canescens* (BUTLER) オオバコヤガ 1♀
4. *D. pacifica* BOURSIN アカフヤガ 1♀ 2♂
5. *Xestia c-nigrum* (LINNAEUS) シロモンヤガ 3♂
6. *Perigrapha hoenei* PÜNGELER スギタニキリガ 2♀ 2♂
7. *Orthosia aoyamensis* (MATSUMURA) アオヤマキリガ 2♀ 4♂

8. *Lithophane socia*(HUFNAGEL) ナカグロホソキリガ 5♀  
すべて越冬幼虫と思われる。
9. *Hypena narratalis* WALKER ムラサキミツボシアツバ 2♀
10. *Hydrillodes funeralis* WARREN ヒロオビウスグロアツバ 1♀  
(いちかわ かずお 〒336 浦和市南本町2-7-11)

## ヒメアカタテハの越冬に関する資料など

原 聖 樹

1984年12月、大宮市指扇の荒川堤防内において次の蝶を確認した。

## 1. ヒメアカタテハ

12月2日：水田の畔に生えたハハコグサに若令4exs.（うち1ex.死亡個体）、中令3exs.（うち1ex.死亡）。ヨモギに中令1ex.死亡。  
12月31日：同上のハハコグサより2令2exs. 3令1ex.。なお、1985年3月3日に同地を訪れたところ、風上側のハハコグサはほとんど枯れており、風下側で枯れずに残った食草にも幼虫を見当らなかつた。

## 2. ミドリシジミ

12月31日、ハンノキの樹幹から見出した越冬卵を表に示す。

| 産卵部位<br>(地上高) | /卵塊中の卵数・・・( ) 内は寄生卵             | 計  |
|---------------|---------------------------------|----|
| 約30cm         | 1                               | 1  |
| 50            | 3                               | 3  |
| 50~100        | 8(8), 1                         | 9  |
| 100           | 1,1,1,1                         | 4  |
| 150           | 1,1,1,1,1,1,1,2(1), 3,3,3,3,3,5 | 34 |
| 200           | 1,1,1,2,2(1), 8(1)              | 15 |

## 3. ゴマダラチョウ

12月31日、エノキ根際の落葉に越冬幼虫7exs.

(はら せいき 〒220-02 神奈川県津久井町中野6/7)

大宮市でマスダクロホシタマムシ

山崎正則

埼玉県では採集例が少ないとと思われるマスダクロホシタマムシ *Ovalisia vivata* を採集したので報告する。

採集日：1985年6月2日

採集地：大宮市島町

採集地は自宅の庭で、家人が知らずに踏みつぶした直後と思われる個体を筆者が拾得したもので、主に腹部がつぶれたようで体液が出ていた。又、つぶれ方が良かったのか破損の程度もそれほどひどいものではなく、触角の一部と右前脚が欠損している程度でかなり新鮮な感じである。参考文献とした埼玉県動物誌にも記録がないため、一応、採集例として記録しておく。

(やまさきまさのり 〒330 大宮市島町824-3)

小鹿野町における蝶の記録

赤羽トモ子

小鹿野町において、若干の蝶を観察したので報告しておく。

1984年5月19日(11:00~16:00)、20日(8:00~12:00) 天気 曇り

ウスバシロチョウ アゲハチョウ クロアゲハ  
ツマキチョウ スジグロシロチョウ モンキチョウ  
テングチョウ  
サカハチチョウ ルリタテハ キタテハ コミスジ  
コジャノメ ヒメウラナミジャノメ ジャノメチョウ  
ベニシジミ ヤマトシジミ ミヤマセセリ

1984年7月7日(11:00~16:00) 天気 曇り 時々雨

キチョウ モンキチョウ スジグロシロチョウ  
コミスジ  
ツバメシジミ ルリシジミ ウラキンシジミ ウラナミアカシジミ  
ヒカゲチョウ クロヒカゲ

(あかばねともこ 〒332 川口市芝園町3-1-909)

~~~~~  
“石戸宿の集い”

——北本市石戸宿周辺調査会 ひとまず終了——

竹内 崇夫

夕映えが秩父連山のかなたにしりぞき、月のない夜の帳があたりを闇に包み込もうとしているその瞬間、突然、荒川土手に輝やきだした2帳りの銀幕。通りかかった乗用車が、びっくりしてブレーキをかける。今しがたのロマンスのほてりを夜風にさらして、うつとり余韻に浸っていた彼女がもがくようにシートから身を起こして叫んだ。「ここはドコ！ あれはナニ！！ 私はダーレ！？！？！」

答えよう。君がだれだか知らないネ。でも、ここは名だたる石戸宿。あの埼玉昆虫談話会の定点調査地よ——。エッ——!! 知らなかつた？ ウツソ—。今、その調査のまつただ中って訳よ····。てなところで、もう少し詳しくその様子をお話ししてみましょうね。

〔北本市石戸宿〕 木枯 紋次郎が長ようじをくわえて、何気なく旅している地名。大宮台地で標高の一番高い処(標高約30m)と秩父山地に連なる荒川との接点にあたり、地質的にも興味深い処である。しかも、長い間農事試験場用地として、また6年前に閉鎖されてからも柵で保護され、広大な土地に緑を蓄え、周辺の生き物を吸い寄せてそれなりの生態系を形成していると思える。雑木林・湿地・湧水・草原・田畠・果樹林・大河・小川という平地としての昆虫のすみかの大半を備えており、それに目をつけて野鳥のメニューも豊富とか。とにかく、この地は農業以外の文明は無く、吉幾三の「ナシニモネー」の世界。

こんな処に大学を造ろうの公園に造り変えるのと、人間達が知恵を働かせはじめたものだから、虫達ものんびりしておれなくなつたらしい。そこで、当会の定例調査地として1983年の所沢市三ヶ島に統いてこの地を選定し、自然環境の現状を歴史にしておこうと決まった。所沢市三ヶ島での調査で磨きをかけ、交通公社の「昆虫観察テクニック」「昆虫飼育テクニック」等の執筆を手がけてきたメンバーの腕の見せどころとなつたのである。

調査は4月～10月の毎月新月に近い土曜の夜と日曜の昼間を定例日とし、あとは都合のよい時に行ってデータをとるという形ですすめてきた。（本誌

そんなある土曜の夜に通りかかったアベックの話が先程のこと。この日は、夜間調査が主といふのに調査地の近くに住んでいる吉田君は朝8時から1人でウロウロし、我々の仕掛けたトラップをきれいに掃除してくれていた。そして夕方集まつた面々に毒ビンをゆすってツクダニを見せびらかしていた。アオオサ・ゴミムシ類・シデムシ・センチコガネ等であった。6時半頃市川氏と松井一家(ご夫妻と純一君)のスクリーンが荒川桜堤をはさんで張られた。まだ明るい。市川氏、氷室氏の熟年組は持参のコンロでタゲの仕度。松井家はシートを敷いて、冷蔵庫から持つて来た数々のおかずをひろげ、和やかな一家団らん。

7時ジャスト、スクリーンに灯がともされた。ジョウカイボンがやって来た。ガモチラホラと飛んで来た。でも何故かだれも腰をあげない。大きめな黒い甲虫が線を描いている。小生、素速く手にとると一声叫んだ。「オサムシだ!! カタビロだ!!!」何と、それはエゾカタビロオサであった。黒いエリトラの点刻の底で不気味に赤く光る個体をのぞいた諸氏は、急に目がさめたように活動をはじめた。

「ニワカ甲虫屋が増えるとやりにくくって・・・」とボヤく小林氏。「私は蛾以外に浮気しませんから」と言いつつヒゲコメツキを毒ビンにしまう市川氏。あの京浜昆虫同好会で第?期オサムシ黄金時代をもたらしたという阿部氏は、今やゴミムシ専門。冬期から何十回となくこの調査地を訪れ、多量の標本の整理が大変のもよう。「アッ、サクラコガネ。キレイ——」とか言いながら仲よく採集にはげむ小堀ペア。新婚ホヤホヤであります。他にする事がないのかな。。。。。「ウスバサイシンのストックない?」「来週オオルリ行かない?」「あの原稿、いつまでに書けばよいの?」などなど。灯火の周りはまるでサロンと化し、アッという間に終了予定の10時となり解散。

翌日は朝10時に集合。青空と緑の樹々の彩りに純白のネットが動く。いまだ青春まつただ中の氷室氏、牧林氏の確かな捕虫網のさえ。トンボは任しといてと碓井氏。ハチの担当者長沢君。チョウとタマムシのオーソリティ山崎氏。

各々が各々の調査を行いたっぷり身体を動かして、ウマイ空気を吸って好きな虫達との出会いを楽しむ。月ごとに変わる昆虫の顔ぶれ。自然が描くキャンバスの変化。埼玉の最も埼玉らしい場所で埼玉を愛し、埼玉の自然長久を願うメンバーが毎月集まってきた。県内未記録種がたくさん確認され、大成果をおさめつつ、10月13に予定の日程を終了した。しかし、シデムシを徹底的に調査している 笹井嬢・阿部氏組は今後も毎週調査を続行するらしいし、インスピレーションが沸いたら今後も灯をともす、と市川代表ははりきっている。延べ百人を超える会員によるこの調査の報告書は1986年夏には刊行される予定である。